第１回温もりのある社会・人づくり部会
議事録

（開催要領）

１．開催日時：令和４年１１月２８日（月）１０時～１２時

２．場所：石川県地場産業振興センター第２研修室

３．出席委員（五十音順）：

宇　田　直　人	石川県ＰＴＡ連合会会長
桑　村　佐和子	金沢美術工芸大学一般教育等教授
田　中　弘　幸	社会福祉法人石川県身体障害者団体連合会会長 （代理出席 若林事務局長）
中　田　実千世	社会福祉法人石川県社会福祉協議会保育部会保育士会会長
中　村　義　治	石川県高等学校長協会会長
西　村　依　子	石川県人権擁護委員連合会会長
野　口　　弘	石川県市町教育委員会連合会会長
長谷川　由　香	子育て向上委員会代表
南　　眞　次	社会福祉法人石川県社会福祉協議会 石川県社会福祉法人経営者協議会会長
向　　孝　志	石川県私立中学高等学校協会会長
八重澤　美知子	金沢大学名誉教授
安　田　健　二	公益社団法人石川県医師会会長
柳　　幸　枝	石川県婦人団体協議会副会長

（議事次第）

１．開会

２．議事

（１）石川県成長戦略会議の構成と進め方について

（２）石川県長期構想の概況について

（３）県民意識調査等の結果について

（４）分野別の現状・課題と今後の方向性について

３．意見交換

４．閉会

（資料）

資料１　石川県成長戦略会議の構成と進め方

資料２　石川県長期構想の概況

資料３　県民意識調査等の結果

資料４　現状・課題と今後の方向性（温もりのある社会・人づくり部会）

参考１　石川県成長戦略会議規約

参考２　社会経済動向

参考３　第１回成長戦略会議の主な意見

１　開会

【北野教育長】

温もりのある社会・人づくり部会を開催したいと思います。初めに、私は今日の司会進行を務めます、県教育長の北野でございます。よろしくお願いいたします。

（中略）

議事に入ります前に、座長の選出についてお諮りさせていただきます。石川県成長戦略会議規約の第６条で、座長は各部会の委員の互選により選出するということになっております。誠に僭越ですけれども、事務局としては金沢大学名誉教授の八重澤委員にお願いしてはどうかと考えておりますけれども、皆様方、特段ご意見、質問がおありでしたら御発言いただきたいと思います。

（意見・質問なし）

拍手をもってということで、御異議ないようですので、温もりのある社会・人づくり部会の座長は八重澤委員にお願いしたいと存じます。八重澤委員、恐れ入りますけれども席をお移りいただけますか。

それでは、ここからは八重澤座長に進行をお願いしたいと思いますが、最初に御挨拶を一言お願いできますか。

【八重澤座長】

金沢大学の八重澤でございます。ただいま成長戦略会議、温もりのある社会・人づくり部会の座長として御推挙いただきました。今後、この部会としての取りまとめに向け、委員の皆様の御協力をお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

２　議事

（１）石川県成長戦略会議の構成と進め方について
（２）石川県長期構想の概況について
（３）県民意識調査等の結果について
（４）分野別の現状・課題と今後の方向性について

（事務局から会議資料１～４に基づき説明）

３　意見交換

【八重澤座長】

これから意見交換に移りたいと思います。ただいまの説明に対する意見、御質問などをいただきたいと思います。特に現状・課題を踏まえた今後の方向性ですね。最初のページと 16 ページにまとめてありますけれども、ご意見をいただきたいと存じます。盛りだくさんの内容にもかかわらず、時間も限られておりますので、誠に恐縮ですが、お１人様３分程度でお願いしたいと思います。今回は初回ということもありますので、名簿順に御発言いただきたいと存じます。

【宇田委員】

ＰＴＡ連合会は地域と学校と家庭をつなぐ機能を果たしているところですけれども、ご意見ということでお話しさせていただきます。

今、私たちの会員数は石川県内で約８万 3,000 人から 4,000 人で、それは小学校、中学校に通う児童生徒、そして教職員の皆さんになります。当然ながら、今、少子化で会員数も減っているのですが、会員数が減っているということは少子化対策の部分がどうなっているかということや、赤ちゃん協議会の御説明もありましたが、少子化対策の前に産科の数が少ない。特に奥能登に少ないということもありましたので、安心して子どもを産める環境にあるのかというところが、子育て世代としては一番心配なところです。

今は両親とも働く共働き世帯が多いですので、２人目、３人目を育てるというところになかなかたどり着いていません。時間も限られていますので、我々のＰＴＡ活動にまでなかなか参画できない状況にあります。もちろん、今、県でも対応されているかと思いますけれども、そういうところはぜひとも重点的にお願いしたいところです。

もう一つは、最近本当に多いと思っているのですけれども、安心・安全の部分です。８月に小松と白山を中心に水害がありましたけれども、それに対して私たちは基金から学用品を買っていただければということで、１人１万円、出させていただきました。300 世帯ぐらいご要望があって、学用品を購入するご支援をさせていただきました。

あとはコロナが落ち着いてきているからなのか、経済活動が動いているからなのか分からないのですけれども、交通事故が非常に多くなってきています。児童生徒が被害者になることが金沢市内を含めて本当に増えていますので、そういうところの地域の見守りをしっかりやって、学力を伸ばすこともちろん大切ですけれども、まずは産みやすい、育てやすい環境をつくるということと、子育てしやすい安心・安全な環境をつくるというところをともにやっていただくことが、我々ＰＴＡ連合会としましては一番感じるところです。

【桑村委員】

私は生涯学習という観点からご意見をということだと思って参りました。

中央教育審議会の生涯学習分科会等でも、リカレントやリスキリングという言葉が飛び交っておりまして、そういうものも非常に大切だと思いますけれども、一方で基礎となる人々が自由に学びたい、学ぶ喜びを享受できるということが、すごく大事だと思っております。本県では社会資本がポテンシャルとしては非常に高いと、出身県だからといって自慢しているところですけれども、今回の方向性の中に、社会教育の分野があまり表に出てこないと感じています。

これからますます社会教育というものが大事になってくるのではないかと思っております。学校の先生方の働き方改革という点でも、県民の理解や地域の協力が不可欠だと思いますし、例えば高齢期の生きがいという介護の問題とも直結してくると思っています。身体の問題もあると思いますけれども、心の健康ということも大切で、社会教育が担える部分もあると思っています。

人々のふだんの出会いというものが、実際には防災の要になります。実際に災害になったときには、人々のつながりが日常的に保たれていることが大きいのです。大分前の話ですけれども、能登の災害があったときに、地域のつながりの中でお年寄りを説得して脱出してくれたということがあって、私はそれを県外で聞いていたのですが、大変誇らしく感じたところです。社会教育はすぐに効果が表れないものですので、後回しになりがちかもしれません

けれども、長期的に投資するつもりで、市町の社会教育への支援をお考えいただきたいと思っています。

もう一つ、今、市町はすごく頑張っていますが、子どもたちを良い活動をするところまで連れていってあげられる大人世代の力がない場合があります。勿論、気持ちはあるのですけれども、親の都合で連れていってあげられないということもありますので、そういうすばらしい活動のところに、大人も子どもも行ける方法を考えていただけないかと思っております。

【田中委員（代理：若林事務局長）】

我々、石川県身体障害者団体連合会は、身体障害者福祉の向上に資するため、昭和 26 年に任意団体として設立されております。昭和 58 年に法人格、社会福祉法人を取得し、石川県身体障害者団体連合会として地道に活動を行っております。会員は視覚や聴覚、肢体不自由といった障害別の協会や、各市町の身体障害者福祉協会などで構成されています。この石川県身体障害者団体連合会が設立されて以来、70 年以上の歳月が経過する中で、昭和 35 年に制定されました障害者雇用促進法をはじめ、障害者基本法やバリアフリー法、障害者差別解消法などの関係法、令和元年には石川県において共生社会づくり条例が制定されるなど、我々障害者を取り巻く環境も随分変わって、福祉制度も大きく改善されてきているように思われます。

しかし、法律や条例、福祉制度が幾ら整備され、改正されても、まだまだ十分とは言えず、偏見や差別解消に向けた取組は、今後も継続していかなければならないと感じております。障害者に何のバリアもなく、普通に生きていける当たり前の地域社会になることが 1 日でも早く実現するよう、方向性のイメージでしっかりうたっていただいておりますけれども、障害のある人も、ない人も、ともに暮らしやすい地域づくりが早く実現するよう、この部会で盛り込んでいっていただければと思いますので、皆さん方の御理解、御協力をお願いしたいと思います。

【中田委員】

私からは保育の現場のことをお話しできればと思うのですけれども、保育といっても障害のお子さんもいらっしゃって、健康なお子さんばかりではないということは、皆さん御存じかと思います。また、小学校につながる大事なお子様をお預かりしていますので、教育にもつながる大事な役割を担っていると思っております。

今、国でも子どもたち、それから保護者の支援ということで、かかりつけの相談機関として保育施設が注目されています。石川県は独自に平成 17 年からマイ保育園制度をしておりますので、全国に先駆けた、その着眼点はとてもすばらしかったと思っております。ただ、マイ保育園自体、今、うまく機能しているのかというのが疑問点です。

もちろん、園を頼って他県からいらっしゃった方が来てくださったり、地域の未就園の親子が家庭以外の居場所として選んだ園に通ったりして、子育ての不安を払しょくしてもらう、そういうことでは役に立っているとは思います。

平成 17 年当初、数年間はうちの園でもプランを立てる子育て支援コーディネーターが活躍していて、ケアマネジャー的な存在でした。知人のいない御家庭がいらっしゃったときに、子育てに関する相談を受けたり、プランを立ててさしあげることも結構活発にしておりましたが、最近、そこがあまり動いていない気がしています。私の周りの状況を見ても、あまり活発ではないと思っております。

また、マイ保育園に登録をしない家庭や登録後の利用がなく、園との連絡が途絶えてしまう家庭のケアも行政との連携で行えると良いと思います。

今、安心できる子育ての環境づくりが国で注目されていますので、子育てに優しい石川県としてこれまでのノウハウを活かしてもっと力を入れて行えば、子育てに不安を感じている家庭も、もっと産み、育てやすい環境を築けるかもしれないのではないかと考えます。マイ保育園＝入園前の一時保育利用と認識していた保護者もいらっしゃいます。今のマイ保育園制度をもう一度振り返って考えていただければと思っております。

【中村委員】

高校教育の立場から、少しお話しさせていただきます。

１点目は、少子化により学校が受ける影響についてです。参考２－１の３ページにピンク色のグラフが載っております。それは 2019 年までしか載っていませんが、現在の高校１年生、15 歳の人口に対して、15 年後、高校１年生になる人は今１歳で、１歳児の人口は 81 万人で確定値です。要するに、この推計値の 2040 年 74 万人というのは非常に甘い数字で、私はもっと早くに来ると思っています。

そういう中で学校経営を考えますと、現在の 15 歳から１歳まで、14 年間に高校１年生の人数は、文科省の出した数字で計算しましたら 75.7%になり、現在の４分の３の人数しかいないということになります。授業などに影響は少ないかもしれませんが、今まで学校でやっていた部活動などの課外活動は大きな影響を受けると思っています。１つの学校でチームを組めないということも起きますし、そもそも教員の数が少なくなりますので、部活動の数を減らさなくてはなりません。何を減らすか、その競技がなかったら、その子たちはどこに行くのかということが問題になります。つまり、部活動の地域移行は、今後 14 年間で進めていかなくてはならない課題だろうと考えています。

教員の中でも共働きの教員が増え、自分はこういう分野を指導したいけれども、家庭的に無理だという話も聞くようになってきています。つまり、何らかの形で社会全体で課外活動を支える仕組みが必要になってくるだろうと思っています。これが１点目です。

もう一つは不登校の生徒についてです。肌感覚でも不登校の生徒が増えてきていると考えています。高校でももちろん増えています。こういう子たちが将来何もしないまま家庭に引き籠もるということは、社会にとっては最もマイナスだと思っていまして、子どもたちの受皿を何とかしなければならないと思っています。

私は泉丘高校の校長ですけれども通信制も併設しておりまして、通信制の子どもたちの中には、卒業しても進学も就職もしないという生徒が一定程度います。今まで不登校を経験して、少し自信のないところがあり、就職にも進学にも一歩を踏み出せない生徒がいます。そこを何とかしようと、今、頑張っていますけれども、本人の気持ちを育てていくことが大事だと思っています。

夜間中学校の話もありました。受皿の一つとしては考えてもいいと思っていますが、私の中では不登校を経験した子がなぜ夜間なのか、少し引っかかっておりまして、そこは違うのではないかというのが私個人の意見です。

【西村委員】

人権擁護委員会の会長としての観点からお話ししますと、人権問題というのは社会構成員全員の問題で、特に学校教育においては、若い時期に皆が学ぶという意味で大切だと思いま

す。ところで、資料４の 10 ページ、石川の教育振興基本計画の、めざす人間像に４つありまして、とても立派な言い方ですが、この中に人権問題はどこにあるのでしょうか。人権というのは、人としてこの世を生きていく上で一番基本の基として学んでおくべきことであり、よく学校や社会で問題になっているいじめ問題なども、やはり人権意識が根底だと思います。

恐らく、この丸の３つ目の、人を思いやるというところに、人権意識があるということが入っているのではないかと勝手に想像したのですが、その対策とされているのが、信頼される質の高い学校づくりということになってきて、その具体的な施策を見ると、人権教育とは関係ないようです。人権分野では、人権啓発活動をやっています、という御報告が総務課長からありましたが、我々人権擁護委員もそれに協力したり参加していますけれども、そんなに全体に大きく影響を及ぼすものにはなっていないように思います。そういう意味で、学校における人権教育がもっと重視されて、きちんとその対策が取られるべきではないかと思いました。

そのほかは一般的なお話ですけれども、アンケート等の全体像を拝見していますと、次代を担う子どもたちの数自身が少ないというのが、一県民として大変気になるところです。ＰＴＡの宇田委員がおっしゃっていた安全・安心の問題や、保育士会の中田委員が言っておられた保育園でのサポート、マイ保育園制度などをきちんとやっていかないと、あるいは子育て支援をきちんとやっていただかないと、子どもは絶対増えていかないだろうと一県民として感じます。

弁護士をしていて離婚事件もたくさんやっておりますけれども、今、共働きが多いのは当然として、生きがいの問題もあるでしょうし、最近の伸び率を見ると何より経済的な問題が多いと思います。しかも、ダブルワークしている女性もかなりおられます。そういう中でＰＴＡの役員などやる余裕がないということにもなってくるでしょうし、２人目、３人目を産むのをちゅうちょするのももっともだと思います。もちろん、これは国の施策が一番大きなところではありますけれども、県独自の施策もさらに国に先駆けて、どんどんやっていただけたらありがたいと思います。

安全・安心では医療の関係で、輪島の医療過誤の対策として赤ちゃん協議会ができたということで、一体どういうものなのか、奥能登で本当に安心して子どもを産み育てられる、特に医療的な面でそういう状況にあるのかというのは少し気になりました。

あとはカーボンニュートラルの時代ですので、立派な資料が事前に送られて、また当日も用意されるのはあまりにもったいない気がします。基本は持ってきていますので、忘れたときのために多少予備はいただくにしても、こんなに全員分なくてもいいのではないかと思いました。

また、コロナ対策の関係では、かなりの人数が狭い中におられて、あそこの窓は開いているのですが、こちらは開いていません。風はあそこにだけ行きますので、寒いですがそちらの方は安全で、我々奥にいる委員は若干、危険なように感じます。ウイズコロナの時代と言われて、共存という状況になっていますけれども、対策はぜひお願いしたいと思います。

【野口委員】

私は学校教育に関して、お話しさせていただこうと思います。

先ほど御説明いただきました 16 ページの内容が、教育も含めた方向性のイメージや、今後、新たな時代の潮流を踏まえた方向性を策定するということで、十分理解しました。

私が今日お話ししたいと思ったことは２点あります。１点目ですけれども、どんな時代に

なっても、一番大事な肝心要は、やはり信頼される質の高い学校づくりを支えるための、質の高い教員の確保だと思っています。15ページには教員採用試験のグラフが載っております。県民意識調査の中にもありましたが、基礎・基本の習得をはじめとした様々な知識を修得させていくためには、指導力のある先生がたくさん現場に欲しいと思っているのですが、実態としては、年々、教員採用試験の倍率が下がってきています。

これは全国的な傾向なのですが、根底には教員の働き方の問題や、最近、よく教員から聞くのは、保護者の方々の要求が強すぎて、対応に非常に苦慮しているということもあるのだと思います。そのような中で倍率が下がってきているところもあるのでしょうけれども、やはり学校現場の質を担保するためには、私は一般企業を参考にすれば３倍を切ったら駄目ではないかと思っています。今回も3.1倍という数字が出ていますけれども、これは小学校、中学校、高校をトータルした平均だと思っています。自分の聞いている限りでは、小学校は３倍を切っていて、たしか2.数倍です。中学校の希望者で辛うじて倍率を保っているのではないかと思っているのですが、ここは３倍を保つ、この部分の取組は大事ではないかと思います。

併せて、最近、学校訪問していて思うのが、工業系の先生方の応募が少ないことです。金沢市も工業高校を持っていますけれども、県内の工業高校がなくなるのではないかという危機感を持っています。工業高校ですから、一般教科を教える先生の確保は、可能かもしれませんが、工業高校の工業を教える先生がいないのです。大学にもお願いしているのですが、毎年一定の先生のニーズがない限り、養成できないという声も聞きます。

そんな中で、我々は最近、民間企業に先生方の活路を見いだしているのですが、技術は持っているのですけれども、そのことを生徒に授業として教える力がなかなか伴っていません。したがって、誰を採用したらいいのかということで、なかなか採用に結びついていかないという現状があります。ですから、やはり教員の質を担保するためには、教員の確保というところに、今後、力を入れていったらいいのではないかというのが１点です。

もう一点、金沢市もそうですが、不登校者数の増加が大きな問題ではないかと思っています。先ほどの取組の中にも保護者への支援がありましたけれども、不登校のお子さんを持っている保護者の方と話をしていると、保護者がどう対応していいか分からないという現状があります。ですから、年間３回となっていましたけれども、さらに違った視点からも保護者をどう支援していくかというところがないと、なかなか子どもの社会的自立を担保できないのではないかと思っています。例えば、フリースクールのように、民間で不登校を支援している団体がありますので、そのような団体との連携も視野に入れながら、不登校支援に力を入れていかないといけないと思います。

教員の確保と、不登校の保護者への支援ということについてお話しさせていただきました。

また、先生方の採用ですけれども、自分も教員だったのですが、最近の先生にはあまり魅力がないと感じています。いつ学校訪問に伺ってもパソコンと向かい合っていて、子どもと向かい合っておらず、子どもの話を全然聞いていない気がします。子どもが困ったことがあって先生のところに行っても、話を真剣に聞いているのでしょうか。そうならないように、私も自分の立場から学校で先生方に話をしていますけれども、先生を採用するときに、もちろん指導力は大事ですけれども、人としての魅力ある先生をさらに採用していただくことを願っています。

【長谷川委員】

ちょうど先週、子育て支援メッセが産展でありまして、３年ぶりのリアル開催だったそうですけれども、本当に非常に多くの子連れのご家族がいらしていて、8,000 人と伺いましたので、イベントや情報を求めている子育て世代がたくさんいらっしゃることを改めて感じました。

今日のたくさんのグラフや資料を拝見して、少子化が想像を超えて進んでいると感じています。私自身、第２次ベビーブームの世代なのですけれども、第３次ベビーブームを起こせず、このまま下がっていく一方で、少子化という言われ方ではなくて、最近、少母化という言われ方をしています。母が少なくなっているということで、どれだけ出生率が上がっても、母親の数が少ないので、人数自体が上がっていかない現状にあると感じております。

ただ、石川県は非常に頑張っている印象があって、子育て支援などの課題はたくさんあると思うのですけれども、教育の分野も頑張っていらっしゃる印象で、私自身、子どもを３人、石川県で育てて、育ててもらったなとすごく感謝しております。一方で、参考資料２－２にもあったのですが、学校がたくさんあって学生が多いのに、特に若い女性が定着しておらず、せっかく育てているのにもかかわらず、流出させてしまって非常にもったいないのではないかと感じています。それは県内の企業に受皿がないことが問題なのではないでしょうか。

ほかのグラフにも出ていましたけれども、女性の働く数は多いけれども、管理職の数が少ない。そうすると、就職活動をする段階で、例えば、その会社のホームページを見て、経営陣や管理職に女性がいないということは、今、割とすぐに分かります。そういうものを見ると、表向きには女性が活躍していますといっても、実際していないことがすぐ分かりますので、そういう保守的なイメージを本気で意識的に壊していかないと、せっかく育てた女性たちがどんどん流出してしまっているという、非常にもったいない状況にあるのではないかと思います。

最近、共働きが増えていますし、いろいろな若者へのアンケート調査を見ても、結婚するにもお金がないし、子どもを育てていくにもお金がないという、そこが問題になっていますので、若い世代を経済的にどうバックアップしていくかというのは、考えていかなければいけない問題だと思います。

それから、この中で全く触れられていなかったのですが、男女の賃金差が非常に大きく、女性が一旦シングルになってしまうと、どうしても貧困に陥ってしまって、そこからなかなか抜け出すことができませんので、女性のシングルの方への支援も考えていただきたいと感じました。

【南委員】

私からは社会福祉法人経営者ということで、保育と障害はお話がございましたので、高齢者についてお話しします。資料４の４ページが高齢者対策ということですが、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくための地域包括ケアシステム構築という中身は、大変うまくまとめられていると思います。ただ、右のグラフの介護職員数が不足するというところは、県の皆さんにはいつも取り組んでいただいているのですけれども、ここが本当に心配なところです。特に 2035 年からピークを迎えるということは分かっており、今の少子化の話を聞いていても、間違いなくこうなるということですので、ここにさらに取り組んでいただいて、国の介護人材確保ということで、さらなる処遇改善等を行わないと、介護職がなかなか集まらない状況だと思っています。また、外国人材の活用にも大いに取り組まないと、石川県よりも関東近辺はもっと大変という話を聞いていますので、その辺に取り組んでいただけ

ればありがたいと思っています。

さらに、この資料の意識調査の中に、デイサービスセンター等の福祉施設が不足、あまり満足していないという資料もございますが、デイサービスの事業自体、一時期、数は増えたと思うのですけれども、今の介護報酬を考えますと、事業を起こそうかという状況ではございません。お医者さんの関係で、能登地区、加賀地区などと数字を出してあるのですけれども、介護も同じような状況で、どの辺が足りないかということを出さないと分かりませんし、その地域でずっと暮らしていけることにはつながらないと思いますので、その辺の数字が分かればありがたいと思います。

【安田委員】

石川県の医療には大きく２つの柱があり、一つは能登地区の医師の偏在をどうするかということです。もう一つの柱が、石川県は糖尿病の有病率が非常に高いということです。現状・課題と方向性のイメージの２ページですが、石川中央は医師・看護師が満たされており、これは全国でも 17 番目です。352 市町で十何番目の多さで、能登北部は 340 番目という、これは数年前の数字ですけれども、これはやはり石川の医療の１丁目１番地です。

地域の見えないインフラは教育と医療だと思っています。そこで開業されている先生でさえ、お子様、御子息に継がせますかと聞くと、継がせないと答えます。御子息の経営のこと、教育、使い勝手や暮らし勝手のことを考えると、どうしても人口減少地では継承が進めにくいと、その町で開業している先生でさえ思っているのです。どちらが卵か鶏かということですが、とにかく暮らし勝手をよくして人口を増やさないと、なかなか地域偏在は解決しないのではないかと思います。

石川県は地方にもかかわらず医学部が２つありますが、だからといって地域偏在が解決するわけではありません。愛知などの都会でも、医学部がたくさんあるにもかかわらず地域偏在は残っており、根本的には石川県の人口を増やすことが一番の課題ではないかと思っています。

その中で能登地区の医療を支えるためには、これから公立病院、または私立の中核病院が地域医療を担っていかなければなりません。医療だけではなくて学校保健、ワクチン等の母子保健、産業保健、夜間急病等々、目に見えない地域医療があります。それは今までもこれからも開業医が担うのですが、公的公立病院の先生方が地域医療に出てきて担うことが必要ではないかと思っています。ですから、人を集めるための財政的な措置をどうするかということが、これから必要なのではないかと思っております。

横に産科の数字もありますけれども、これは今、赤ちゃん協議会で短期的な目標、中長期的な目標をいろいろ練り込んでいます。脳神経外科が少ないということですけれども、脳神経外科に関しては心筋梗塞もそうですがゴールデンタイムというものがあり、その時間内に治療を開始すれば、以前と違って高い救命率が得られます。脳神経外科にしても今は個人的な先生方の御努力で、医師の少ないところでも救急搬送して、脳卒中や心疾患に対応しています。

医師の偏在はあるのですが、今も触れましたけれども、診療科別の偏在があります。これは産婦人科が一番多いのですけれども、石川県の集約が進んでいないのには歴史的な背景があります。いかに搬送先病院の整備をするとか、搬送手段をどうするかとか、人材育成、養成、研修、派遣をどこに集めるかとか、そういうことを継ぎ接ぎしながらも、抜本的な改革をしなければいけないと思っています。

金沢市に耳鼻科が少ないということがあったのですが、５～６年前に厚労省から、それぞれの診療科別にどれだけ足りていないか、年間どれだけの医師を養成しなければいけないかという表も出ております。石川県においては、耳鼻科は全国平均より少ないのですが、毎年３人程度増やしていけば、耳鼻科の医療供給体制は満たせるのではないかということです。

もう一つ、５ページですが、糖尿病というのは糖尿病性腎症に代表される腎疾患で透析が始まるということで、石川県では以前から糖尿病予防に取り組んでいます。なぜ石川県に多いかというと、食生活です。全国で世帯別のアイスクリーム消費量が一番多いのは石川県です。また、お寿司、お茶が盛んですので、お茶菓子等、どうしても食生活において、糖尿病有病率のリスクが上がる要因があります。ちなみに、同じ地方で糖尿病有病率が高いのは香川県です。あそこはうどんをたくさん食べるからです。

ですから、食生活を変えなければいけないのですけれども、そのほかに糖尿病になっているにもかかわらず、その人たちがまだ自覚していない。糖尿病というのは、重大な症状が出てくるまでは、あまり本人に認識がない疾患で、症状が出てきたときには重症化している場合が多いのです。それをいかに拾い上げて治療につなげるかということも、我々医療に携わっている人間の問題で、これは石川県としても県医師会としても、重要な課題として認識して取り組んでいます。

石川県の医療もいろいろ課題はあるのですけれども、総じて言うと、石川県の医療はレベル的に高いものだと思っております。

【向委員】

私学というのは、皆さん御存じのように建学の精神というものがありまして、それぞれ建学の精神に基づいて、それをどう日々の教育に具現化するかが一番大きな課題であり、それぞれの学校が人づくりに励んでいます。そして、私は現在、遊学館高校に勤務しているのですけれども、ここの温もりのある社会、人づくりの方向性のイメージの中で、豊かな心というのがキーワードとして載っていますが、その具体的な例で参考にしていただければと思うことがあります。

遊学館高校の男子卓球部のことですが、見守り隊ということで、毎朝７時半から８時まで、毎日ですので結構大変なのですけれども、鱗町の交差点から犀桜小学校まで、大体 50 メートルから 100 メートル間隔で男子卓球部の生徒が立って、いわゆる見守りをやっています。関係している機関は金沢中警察署の方々、それから新竪や菊川の町会の方々、犀桜小学校の先生方ですが、もちろんメインは登校してくる小学生です。男子卓球部はこれまでも全国でかなり上位の成績を収めていまして、活躍している部活の一つですが、これまでこの時間帯は大体練習していたのです。その練習をやめて、毎朝７時半から８時、練習を削って見守っていたのですけれども、明らかに豊かな心というか、表情がすごくよくなってきました。これは下手に練習しているよりは、こういう形で外に出て、人間的に成長したというのが目に見えて分かるいい例だと思います。

これは一つの例ですが、私が何を感じているかといいますと、高校生というのは同じ高校の中だけでは、なかなか日々の教育活動で豊かな心は育まないのではないかと思っているのです。やはり大人、あるいは小学生、いわゆる自分と違う立場の人と接することによって、人間が大きく豊かになっていくと思っています。

高校生の場合はそれ以外にも、例えば、ボランティア活動など、いろいろなことに取り組んでいる生徒がいるのですが、どうしても組織が一つの高校の中の一つのグループという感

じで、外部の大人や他校の生徒と接する機会は意外と少ないのではないかと思っています。ですから、キーワードの一つとして、大人、あるいは小学生、中学生、そういう自分たちと違う立場の人と接する機会をできるだけ、時に町会や企業でもいいのですけれども、そういう機会があると、高校生の場合は心豊かになっていくのではないか、という気はしております。

それから課題についてですけれども、これは何人かの方が言われていましたが、やはりマイナスの部分には不登校があるかと思います。最近の家庭はほとんど共働きですので、生徒が１人で家にぽつんといる状況が考えられます。高校としても教員はできるだけのことをしているのですけれども、不登校ということだけに関して言えば、高校や家庭に任せる段階ではないのではないかと思っています。やはり社会全体で何とかしなければいけないのではないでしょうか。

なぜかといいますと、高校までは不登校という言葉でしょうけれども、数字的には一切出ていませんが、30 代、40 代、50 代、いわゆる働き盛りでひきこもりという話も聞いています。そのひきこもりに当てはまる人数がどれぐらい世の中にいるのか分かりませんけれども、不登校の場合は、まだ関わってくれる人が現実としているわけですが、ひきこもりということになると、ある意味、大変なことだと思っております。どこにもそういう数字は出てきていないのですけれども、ひきこもり予備軍のような人もいるわけで、ここは皆で考えていかなければ、温もりのある社会というのは名ばかりになってしまう気がしております。

【柳委員】

私が女性の目線で考えていることは、少子化というのは人口が減るということ自体、経済活動も低下していくことで、本当に大変な問題だと思って、特に関心があります。女性がなぜ子どもを産まないかというと、やはり安心して子どもを産んで育てる環境がつくられていないからだと思います。私が子どもを産んだときには、金沢赤十字病院には松本先生や遠藤先生など、いい先生がいらっしゃって、産婦人科は人であふれている時代だったのに、今は、金沢赤十字病院ですら産婦人科がなくなっているという、本当にびっくりする状態だと思います。とにかく出生率を増やしていかなければいけないというのが本当に問題だと思っています。

最近テレビで見たのですけれども、岡山県の奈義町というところの出生率が 1.何倍だったのが、すごく努力して 2.95 倍になったそうです。町会議員や町議会の職員の数を減らして原資をつくって、不妊治療の助成や出産祝い金が 10 万円、高校までの医療費は無料、給食費も半額にするなど、とにかく努力したおかげで 2.95 倍になったそうです。やはり努力すれば何とかそうなると思って、石川県も私が住む白山市も、高校までの医療も無料化してもらっていますし、努力していらっしゃることは分かるのですけれども、さらなる努力が必要だと感じます。

個人的な話ですけれども、今、私の孫が高校２年生で医学部を目指しています。女性の目線で産婦人科も婦人科も、女性がかかるところは女性の医者というのは、すごく大切だと思うのです。もう１つ、金沢大学医学部に地域枠推薦というものがあって孫が目指しているのですけれども、それも男子生徒のほうがたくさん採っていただけるとも聞きます。それはどうか分からないのですけれども、優秀な人材が石川県から出ずに、石川県で働いてくれるということも、すごく大切なことではないかと思いますので、またよろしくお願いいたします。

それから、金沢大学附属高校もボランティア活動をやっていまして、私は鶴来なのですけ

れども、孫が鶴来で小学生や中学生を集めて、今まで４～５回、寺子屋というのでお勉強の会をしたのです。今の中学３年生は中学に入ったときからコロナで、それで不登校になった子も多いですし、今の不登校の話を聞くと、私も２～３人のお母さんに聞いたのですけれども、学校でいじめられているということも全然なく、不登校になるそうです。やはり出足で学校がお休みだったので、友達と会う機会もない、学校も行かない、部活もしないということが、すごくマイナスになっているのではないかと危惧しています。

【八重澤座長】

委員の方が様々な領域にわたっておっしゃってくださいましたので、私は簡単に意見だけ申し上げたいと思います。

例えば、９ページに、差別や偏見のない心豊かな社会づくりの推進とあります。この対象となるのが女性、子ども、高齢者、障害のある人などと書いてあって、はっきり言えば、今まで社会の中に参入し難い人たちの参入を、もう少し進めたいということだと思うのです。そのためには新しい概念が様々登場し、例えば、ＬＧＢＴＱは全国調査によりますと、新潟県を加えた北陸三県（石川、富山、福井）が一番遅れているそうです。つまり、６割の人が偏見を持っているというデータもありますので、そうしたこれからのところに、何とか力を注いでいくことは、とても大事なのではないかと思っています。

それと、教育のことはとても気になっておりまして、教員志望の倍率ですが、金沢大学で実際に教員をやっている人たち（現職教員）が、教員を目指す人たちのところに話に行って、一番よく聞く意見が、「覚悟がない/自信がない」ということです。１人ですっと立つということがなかなかできない。私が授業で教えていても、学生たちはなかなか答えを言わないのです。なぜかというと、もしそれが間違っていたら困る。授業なのですから間違ってもいいと思うのですが、とにかく覚悟を決めないということで、受験だけに力を注ぐのではなくて、もっと長い時間をかけて自発性、それから責任をきちんと自分で受け止める力を養っていくことも、少し遠回りですけれども、教員を増やす力になるのではないかと思います。

例えば、いしかわ師範塾ももう 10 年たちましたけれども、あそこでも様々なトレーニングをやってくださっていると思っています。そのほかのことは他の委員がしっかりおっしゃってくださいましたので、少しだけ付け加えさせていただきました。

それでは、まだまだ意見が出尽くさない方もいらっしゃると思うのですが、これで意見交換を終了させていただければと思います。委員の皆様には、きちんと意見をまとめてくださって、うまく話してくださることに御協力いただきまして、本当にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

そして本日、御議論いただきました方向性等につきましては、今後開催される成長戦略会議において、私から部会を代表して報告させていただきます。報告内容につきましては、事務局と調整してまとめたいと考えておりますので、私に御一任いただきたいと思うのですが、よろしいですか。

（異議なしの声あり）

【八重澤座長】

ありがとうございます。それでは、進行を事務局にお返しさせていただきます。

４　閉会

【北野教育長】

八重澤座長、ありがとうございました。長い間にわたり、皆様方に御議論いただきまして、本当にありがとうございます。今ほど座長からもありましたけれども、今日のご意見につきましては、私どもと座長でお話しして、今回のコメントを戦略会議にも御報告させていただきたいと思います。

それでは、以上をもちまして第１回成長戦略会議、温もりのある社会・人づくり部会を終了といたします。本日はお忙しい中、御出席いただきまして、長時間、ありがとうございました。

次回の会議につきましては、改めて御連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。